

色川三中 国学者。家業の傍ら研究に努め、膨大な古文書を集録、後世の諸学界に大きな影響を及ぼした。

いるかわみなか

宣長没・・・1801 =

常陸国土浦城下で薬種商と幕府の御膳醤油製造業を営む商人色川英恵の長男として生まれる。色川家はもと紀伊国牟婁郡色川村の土豪であったが、のち東国に移住小田氏に属し同国信太郡小岩田村に住み、天正年中小田氏が滅んだ後、慶長年間に土浦に土着し、初め農業を営んだという。

幼少より書を好んだが、前2代とも書を読んで家産を傾けたところから、また三中が出生した頃から、家業の不振が目立ち、

・・・1810 = **9歳** :

杉田玄白没・1817 = 16歳 : この年まで外に出され、専念して読書することはなく、

水野志成老中1818 = 17歳 :

群書類従完結1819 = **18歳** :

・・・1826 = 25歳 : **病死の父の跡を受けて家督を継いだ当時も家計が破産状態に陥ったため、中心となり懸命な家産立て直しを行ない、その甲斐あって、**

水戸事件・1828 = **27歳** :

富嶽三十六景1831 = 30歳 : この頃から次第に経営が立ち直りを見せ、**生活が楽になったため、田宿町の薬種商の方を弟美年に譲り、自らは本町の川口河岸で醤油業に専念するにいたった。この間家業にあけくれる三中の楽しみの一つは、時折近在の親戚木村家などで催される江戸の国学者小山田与清を師と仰ぐ松屋社中の歌会に出席することであったが、この頃から国学の本格的研究に身を入れるようになり、しばしば江戸に出、**

高島砲術・・・1834 = 33歳 : **平田篤胤を訪れ、**

・・・1836 = 35歳 :

***橘守部へ入門するにいたった。この年没した水戸の国学者中山信名の著述が散逸するのを惜しみ、それらを買って求めて保存し、未定の稿本「新編常陸国誌」を修訂したこともよく知られている。**

大塩平八郎乱1837 = **36歳** :

家業のかたわら、国史・古典の研究、とりわけ古来の田制・税制・度量衡の研究に没頭し、とくに、田制研究の資料として、香取神宮とその社家の所蔵する文書を影写して、

天保改革弾圧1842 = 41歳 : ***古文書集の作成に着手、**

阿部正弘首座1845 = 44歳 :

孝明天皇・・・1846 = **45歳** :

・・・1848 = 47歳 : ***「香取文書纂」を完成。採集の範囲と周到は同時代の各種文書集の内でも群をぬいたもので、江戸古文書の到達点を示したばかりでなく、後世の諸学界にとって貴重なものになっている。**

ペリー来航・1853 = 52歳 :

安政大地震・1855 = **54歳** : **没した。**

「田令図解抄」「度量考量」「投旗志」「色川三中来簡集」「瑞霞園筆記」「片葉雑記 - 色川三中黒船風聞日記」など。江戸の黒川春村や山崎知雄らと親交し、近隣の後進らに与えた学問的影響も大きい。